

新島 襄の言葉

本井 康博（同志社社史資料室）

「仰願クハ益千里之志を養ひ、我カ邦家を救ふ之大計を立賜へ」

同志社学生、古賀鶴次郎宛の新島書簡（一八八九年一月二日付）の一節。「ひとりハ大切」が信条の新島は、一学生にも東京から熱烈な書を寄せる（『新島襄全集』Ⅳ、二二二頁）。

「千里之志」は新島愛好の言辭で、漢詩（曹操）の一節、「老驥伏櫪、志は千里に在り、烈士は暮年に壮心止まず」に基づく（同前Ⅳ、二九五頁）。「驥」は一日に千里を駆ける駿馬、そして「櫪」は厩の根本を意味する。厩に繋がれた名馬は、老いても「千里外ニ馳スルノ壮心」を堅持し、「脱櫪」を夢見る（同前Ⅳ、三二九頁）。「男児決志馳千里」と詠つて函館から脱国（脱櫪）した新島は、最晩年にいたつても「千里之志尚未消」と述懐する（同前Ⅲ、三三一頁。伊藤彌彦「新島襄の脱櫪」四五～四六頁、北垣宗治編『新島襄の世界』）。

この精神に感化されて、「千里」を雅号に選んだのが山室軍平である。同志社は「千里之志」を擁したこうした同志の結社であり、「我カ邦家を救ふ」ためにその再生産を期す学園である。

